

令和3年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

防災キャンプ in 吉備

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

近年全国的に頻発している災害について、子供たちが家族とともに必要な知識を得るとともに、一人一人が防災意識を高め、もしもという場合の対応方法を実践することにより、災害時の行動について考えを深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和3年10月2日（土）～3日（日）1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学生4～6年生とその家族 6家族30人程度

② 参加人数

5家族15人

(3) 講師等

① 講義・演習「自然と災害を知り、正しく備えよう」

講師：谷山 典（国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職付主任【防災士】）

福田 徹（国立吉備青少年自然の家 非常勤職員）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 吉備中央町内や近隣地域の小学校を中心に広報活動を行い、県内各地域から広く参加者を募集した。
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、三密に配慮した活動や家族単位の活動を中心に実施した。
- ③ 新たに防災士の資格を取得した職員が主となることで、新しい視点や防災グッズを取り入れながら、過去の事業内容の良さを活かした事業を構成することができた。
- ④ 防災について楽しみながら防災意識を高められるように、講義・演習では、災害について家族と一緒に考えながら学べる機会とし、参加家族が防災への心構えや必要な知識を習得できる活動とした。
- ⑤ 空き缶や段ボール等の身近な廃材を使用することで、身近にあるものが防災グッズとして活用できる楽しさや自分達で工夫して活動する大切さを味わえるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

10月2日(土)		10月3日(日)	
13:30	受付	6:45	起床・洗面・清掃
14:00	開会式	7:45	朝のつどい
14:30	①講義・演習 「自然と災害を知り、正しく備えよう」	8:00	④野外炊事 「災害時に役立つ野外炊事2」
16:00	②野外炊事 「災害時に役立つ野外炊事1」	9:30	⑤防災グッズの活用体験 「救助法・防災グッズの活用など」
	③避難所体験 「段ボールベッドなど」	11:30	閉会式
18:30			
20:00	入浴		
21:00	就寝準備		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【①講義・演習「自然と災害を知り、正しく備えよう」】



【②野外炊事「災害時に役立つ野外炊事1」⑦】



【②野外炊事「災害時に役立つ野外炊事1」④】



【③避難所体験「段ボールベッドなど」】



【朝のつどい「避難所体操」】



【④野外炊事「災害時に役立つ野外炊事2」】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉗】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉘】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉙】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉚】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 避難所体験をしたことで、普段の生活とは異なる環境がどれだけ体や心に負荷がかかるのか知ることができました。
- ② 初めて体験することばかりで、楽しく参加することができました。
- ③ 幅広く色々な体験ができて良かったです。
- ④ 事業に参加したことで、避難に必要なものへの気づきも広がりました。
- ⑤ 体験しないと備えが不足することが良く分かりました。

(3) 成果

- ① 事業全体をとおして、災害について知るだけでなく、家族で防災についての考えて実践する機会にもなり、一人一人の防災意識を高めることができた。
- ② 家族ごとに段ボールベッドをつくり、避難所生活をしたことで、災害時の生活の不便さ等を体験することができた。
- ③ 事業終盤に、家庭にある防災グッズの紹介や今後の備えなどについて考えを共有することで、防災意識を向上させることができた。

(4) 今後の課題

- ① 今後、研修支援の活動プログラムとして利用団体に提供できるように整備する必要がある。
- ② 質の高い事業展開やプログラム構築のため、職員の指導力向上に向けて研修する必要がある。

担当：企画指導専門職付主任 谷山 典